

第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会レポート

2024年11月1～3日の3日間、岡山コンベンションセンターを中心に開催された第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会の感想や今後への期待について広報委員会の先生方に伺いました。

【佐浦隆一先生】 会場がJR岡山駅と直結していたため、移動は非常に楽でした。そして、岡山と大阪は通勤可能圏内であることから、初日に一旦、帰阪してしまったのですが、翌日、大雨の影響で移動に困ることになりました。幸い、座長などの役割がなかったため大きな問題にはなりませんでしたが、一般演題やポスターセッションで発表に間に合わなかった方がおられたと聞き、学術集会に参加する際には天候急変というリスクを認識する必要があると改めて感じました。そして今回も、オンデマンド配信があったことは非常に便利でした。ただ、可能であれば一般演題もオンデマンドで視聴できるようにしていただけたとありがたいです。特に、複数の口演や発表が重なった場合、後から視聴できると非常に助かります。

印象に残ったのは「基本診療レクチャーマラソン」です。このセッションは、日本リハビリテーション医学会の会員であれば、いつでも視聴できるe-learning教材としてアーカイブ化していただけると、さらに多くの会員にとって有益になるのではないかと思います。

学術集会の開催経費は非常に大きく、準備される側の負担も相当なものだと推察します。以前はメーカーからの支援を得やすかったかもしれませんが、今後も同様の支援が期待できるかどうかは不透明です。今回の学術集会を成功させた会長の花山耕三先生にも、きっと多くのご苦勞があったのではないかと感じました。学術集会への参加者は全会員の約3～4割程度だと思いますが、参加

率を上げるためには、今回のアンケートとは逆に、参加しなかった会員や参加できなかった会員にアンケートを依頼し、参加率向上のための方策を検討することも有効ではないでしょうか。若手専門医からは、「メイン会場は移動がしやすかったが、別館は遠すぎて、聞きたい口演に間に合わなかった。」「ポスター会場は人が多すぎたので、もう少し空間が広い方が良いと感じた。」という意見がありました。また、若手の関連専門職スタッフからは、「ポスター会場が暗く、見づらかった。」「聴講したいシンポジウムの時間が重なっており、オンデマンド配信もなかったため残念だった。」という意見も寄せられました。

【酒井朋子先生】 「晴れの国岡山」というイメージとは裏腹に、当日は激しい雨が降っていました。しかし、会場は岡山駅から屋根付きの連絡通路でつながっていたため、濡れることなく到着することができました。このアクセスの良さは非常に助かりました。雨の影響で観光に出かける人が



会場入り口



YIA 表彰式

少なかったことも一因かもしれませんが、会場内は多くの参加者で賑わいを見せており、特にポスター会場の人混みによる熱気は非常に印象的でした。

オンデマンド配信は、今や学術集会において一般的なものとなっていますが、現地参加時に聞き逃してしまった講演や、特に印象的だった講演を後日再度視聴できる点は非常にありがたいと感じました。現地参加とオンデマンド配信の両方を活用することで、より深い学びが得られると実感しました。会長講演では、花山先生がご自身の入局当時のリハビリテーション科の様子や、当時の高齢化の見積もりが実際よりもかなり低かったことなどについてお話しされ、大変興味深い内容でした。また、若手医師の活発な活動を支援すること、多職種を巻き込んだ取り組みや他分野の先生方への発信を強化することの重要性を改めて感じました。さらに、D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）の推進において、女性医師への支援を強化するだけでなく、経験豊富なシニア層の力を活用し、地域医療の活性化に向けた試みを進めることも重要であると考えます。総じて、今回の学術集会はアクセスの良さや会場の熱気、そしてオンデマンド配信の利便性など、多くの点で充実したものでした。今後もこのような取り組みが継続されることを期待しています。



会長の花山耕三先生のご講演

【石田由佳子先生】JR 岡山駅と会場が連絡通路でつながっていたため、駅からのアクセスが非常に便利でした。特に2日目は台風の影響で大雨と強風に見舞われましたが、ホテルから傘をさすことなく会場に行けたのは大変助かりました。会場内では参加者が溢れているセッションもあり、展示会場にも多くの人が集まっていた印象です。オンデマンド配信は、日程が合わず聴講できなかった講演やセッションを後日視聴できる点が非常に便利で、今後も継続していただきたいと思います。現地で興味深く聴講した講演についても、再度視聴する予定です。「基本診療レクチャーマラソン」の講演をいくつか聴講しましたが、小児の「脳性麻痺の装具・補装具」に関する講演では、実際に作製された装具や補装具の症例が多く紹介され、装具診療についての知見を深めることができました。特に、広島東洋カーブのロゴが入った車いすの紹介は印象的で、このようなロゴマーク入りの車いすが作製できることに興味を持ちました。また、若手の参加者からは「駅から近くて便利だった。」という意見が多く聞かれました。男女共同参画委員会企画のシンポジウム7「リハビリテーション医学の広がり」も聴講しましたが、さまざまな立場で活躍されている先生方のお話を通じて、お互いの立場を尊重することの大切さやチーム医療の魅力を再認識することができました。



挨拶をされる安保雅博理事長

た。総合的には、最寄り駅から近く、会場もコンパクトにまとまっており、参加しやすい学会だったと思います。ただし、参加者が多く、立ち見の方が出るほど混雑していた会場もあり、入室を躊躇する場面もありました。そのため、会場前のモニターやサテライト会場で聴講できる仕組みがあれば、より多くの参加者が快適に学べるのではないかと感じました。

【鈴木亨尚先生（大國生幸先生の代理）】 メーカー展示を直接見られるのは学術集会ならではの魅力であり、大変良かったです。また、休憩コーナーも快適で、参加者にとってありがたい配慮だと感じました。特に驚いたのは、狭い会場内でモビリティの試乗ができた点です。こうした体験型の展示は非常に印象的でした。ポスター発表も充実しており、空き時間を利用してまとめて見ることができたのは良かったです。ただし、ポスター会場が2日目からしか入れなかった点は残念でした。1日目からも入場できるようにしていただくと、より多くの発表をじっくり見ることができると思います。また、一部の会場が遠方にあり、アクセスが悪かった点も改善を期待したいところです。オンデマンド配信については、再生位置の記憶機能や、後から続きを再生できる機能があれば、さらに便利になると感じました。これらの点が改善されれば、より多くの参加者にとって使い



特別講演をされる長谷川敏彦先生

やすいものになると思います。

【酒井康生先生】 2日目のみ参加しました。大雨の影響で交通機関が麻痺し、ポスター会場では演題が取り消され、掲示されていないポスターも見受けられました。しかし、セッションが始まると多くの参加者が会場に集まり、活発な討論が展開されていたのが印象的でした。私は所用のため、座長を務めたポスターセッション以外には参加できませんでした。また、大雨の影響で参加できなかった仲間も多く、周囲の意見を聞く機会が限られてしまったのは残念でした。ポスター会場の通路が狭く、目的のセッションにスムーズに辿り着けないほど混雑していた点も気になりました。今後は、通路をもう少し広く確保していただくと、参加者がより快適に移動できるのではないかと思います。

【鈴木文歌先生】 現地参加はせず、今回はオンデマンド配信を利用しました。オンデマンドでさまざまな講演を自分の隙間時間に視聴できるのは非常に便利で、また勉強になります。ただし、今回は視聴完了ボタンや質問回答など、単位取得の条件がいつもより厳しめだった印象を受けました。特に印象に残ったのは、「医療現場における倫理」の藤島一郎先生の講義です。現場での具体的な症例を提示してくださり、自分自身が悩んでいる症例と重なる部分も多く、大変参考になりま

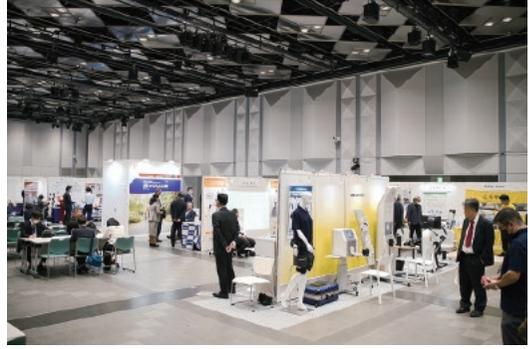


ポスターセッションの様子

した。また、「呼吸器疾患のリハビリテーション医学・医療：歴史と展望」の海老原覚先生の講義も、さまざまな研究結果を踏まえた楽しいお話で、非常に勉強になりました。周囲の医師たちもオンデマンド配信を利用して参加している方がほとんどであり、今後もこの形式をぜひ継続してほしいと感じます。リハビリテーション医学は非常に広い領域を扱うため、自分の専門外の方や悩んでいた症例に関する講義を多数視聴できるのは、日々の臨床に大いに役立ちます。

【谷口直史先生】会場は駅から近く、屋根付きの陸橋でアクセスが快適でした。現地参加者も多く、会場全体に熱気が感じられました。オンデマンド配信は非常に見やすく、都合の良い時間に利用できる点が大変ありがたかったです。現地ではすべての講演を視聴することが難しいため、オンデマンド配信の存在は非常に重要であり、今後も継続してほしいと感じました。特に印象に残ったのは、専門医共通講習会で、非常に有益な内容でした。中でも教育講演8「リハビリテーション医療における各種意見書・診断書の書き方：身体障害者診断書を中心に」の高岡徹先生のお話は、日常業務で曖昧にしていた点を確認する良い機会となりました。このような実践的な講演は、今後もぜひ続けていただきたいと思います。

【鶴川俊洋先生】「晴れの国」として知られる岡



企業展示の様子

山での学会集会が、大雨の影響を受けることになったのは想定外でした。特に2日目は、多くの先生方の予定が変更になったと聞き、学会集会の運営と天候の関係性について改めて考えさせられました。私自身は過去に岡山県で今回の会場を中心とした学会に数回参加した経験があり、地理的に迷うことなく安心して参加することができました。岡山コンベンションセンターでは、全体的にメインホール以外の会場の集客が良かった印象を受けました。おそらく、教育講演がオンデマンドで視聴可能だったため、参加者が一般演題に集まったのではないかと思います。一方で、2日目・3日目にポスター発表が始まると、コンベンションセンター内の会場では空席が目立つようになり、逆にポスター会場はあふれんばかりの参加者で賑わっていました。今後の学会集会では、オンデマンド配信や参加者（特にメディカルスタッフ）の動線を十分に考慮したプログラム作成が重要だと感じました。試験委員会・認定委員会プログラムは、専門医の口頭試験を担当させていただいている立場として非常に参考になりました。また、「基本診療レクチャーマラソン」を聴講・担当しましたが、時間配分の難しさを改めて実感しました。一緒に働いたことのある若手のメディカルスタッフからは、「本医学会の学会集会に参加する意義を強く感じた。」「刺激になった。」「明日



集合写真

からの臨床への意欲が高まった。」といった感想を聞き、大変嬉しく思いました。オンデマンド配信については、ログインから視聴まで特に問題はなく、スムーズに利用できました。オンデマンド配信されるセッションが多いことは、現地参加・非現地参加を問わず参加者にとって大きな利点です。しかし、現地で講演する演者へのリスペクトを考慮すると、今後は配信対象をもう少し絞ることも検討すべきかもしれないと感じました。また、日程表や抄録集、アプリが比較的早い段階で公開されたため、現地参加に向けて十分な予習ができた点は非常に良かったです。ただし、最近では現地参加者とオンデマンド配信のみの参加者の間で、参加前準備に温度差があるように感じます。企業展示や全員懇親会以外にも、現地参加者がより充実感を味わえるような学術集会の企画が期待されます。

【正岡智和先生】岡山では、春季・秋季学術集会が以前から開催されており、会場にも比較的慣れていることや、JRの駅から近くアクセスが良いことから、使いやすいとの評価がありました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックを契機に本格的に導入されたオンデマンド配信については、ほぼすべての教育講演を視聴できる点や、同時間帯に複数の講演が重なった場合でも選択に悩

む必要がない点、さらには復習ができる点など、多くの好意的な反応が寄せられました。特に若手の先生方からは高い評価を受けており、予算の問題やパンデミックの終息に伴い減少する可能性はあるものの、「ぜひ継続してほしい。」という意見が多く寄せられました。当方としても非常に参考になる意見でした。また、裾野を広げるという観点から、初期研修医や医学生も参加しやすい「基本診療レクチャーマラソン」というセッションは非常に素晴らしい取り組みだと感じました。このセッションは、若い医師たちから高い評価を得ているだけでなく、1つの領域に集中しがちなベテランの先生方にとっても、慣れていない分野を振り返る良い機会となっており、大変意義深いものだと考えます。リハビリテーション科は、他の診療科と比べても広い領域を扱う必要があるため、学術集会で知識を見直す機会があることは非常に重要であると考えました。日本リハビリテーション医学会の学術集会は、新型コロナウイルス感染症のパンデミック後、さらに規模が大きくなると予想されます。それに伴い、開催可能な場所が限られてくる可能性もありますが、できるだけ様々な地域で開催されることを願っています。

(文責：広報委員会)